

令和6年度
宮崎県学校図書館教育研究大会
県北大会研究紀要

大会主題

「豊かな心と学びを育む学校図書館」



期 日 令和6年8月8日(木)

会 場 延岡市カルチャープラザのべおか
延岡市社会教育センター

宮崎県学校教育研究会図書館教育部会

あいさつ

宮崎県学校教育研究会図書館教育部会
会長 有田 勝 則

この度、県内各地より多くの皆様のご参加をいただき、令和6年度宮崎県学校図書館教育研究大会県北大会を開催できますことについて心より感謝を申し上げます。

さて、今後の学校図書館の活用の在り方につきましては、新学習指導要領総則の中で、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童・生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実する」ことがうたわれております。また、特別活動の学級活動の中で、一人一人のキャリア形成と自己実現のために「現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ること」と明記されており、自己実現を図る上でも図書館等を活用する重要性がうたわれています。

また、学校においては、このような図書館教育に期待されている役割が最大限に発揮できるようにすることが重要であり、学校図書館が児童・生徒にとって落ち着いて読書を行うことができる、安らぎのある環境や知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境として整えられるように努めることが大切であると考えられます。平成28年11月に文部科学省より出された「学校図書館ガイドライン」においても、「学校は、学習指導要領等を踏まえ、各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利用し、児童・生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努めることが望ましい。」とされ、校長のリーダーシップの下、学校図書館に関する全体計画に基づき、教職員が連携して、計画的・組織的に学校図書館の運営に当たっていくことが求められています。

そのような中、これまで本学校図書館部会では、学校図書館の役割の充実や各校における読書活動の推進に向け、県内各地区で、様々な研究や取組を行ってまいりました。今回の県北大会では、大会主題を「豊かな心と学びを育む学校図書館」として掲げ、6つの分科会を設定し、学校図書館の活用や各校における読書活動の推進、地域や関連機関との連携等の視点から各地区の発表とそれに伴う協議を行います。これらを通して、今後、県内各学校図書館の活用と児童生徒の読書活動の充実がさらに図られますことを心より願っております。

最後に、本大会の開催に当たり、準備や大会の運営にも携わっていただいている開催地区の関係者の皆様、忙しい中、研究を進めてくださった発表者の皆様に心より、お礼を申し上げます。加えて、これまでご指導・ご支援を賜りました宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、その他関係の皆様方に深く感謝を申し上げ、あいさつといたします。

令和6年度 宮崎県学校図書館教育研究大会県北大会

1 期 日 令和6年8月8日(木)

2 会 場 延岡市カルチャープラザのべおか(宮崎県延岡市本小路 39 番地 | 電話 0982-34-6549)
延岡市社会教育センター (宮崎県延岡市本小路 39-1 電話 0982-22-7032)

3 主 催 宮崎県学校教育研究会図書館教育部会

4 後 援 宮崎県教育委員会 延岡市教育委員会 日向市教育委員会 五ヶ瀬町教育委員会
門川町教育委員会 美郷町教育委員会 諸塚村教育委員会 日之影町教育委員会
椎葉村教育委員会 高千穂町教育委員会

5 大会主題 「豊かな心と学びを育む学校図書館」

6 大会趣旨

学校図書館は、児童生徒の読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、学習活動を支援したり授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能を有している。また、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能も有している。さらに、学校図書館には変化する社会情勢を踏まえ、「児童生徒の心の居場所」、「家庭・地域における読書活動への支援」等の機能を果たすことも求められており、「教員の授業改善や資質の向上」の観点からの重要性も踏まえ、学校図書館が果たすべき役割は年々、多様化が進んでいるといえる。

現在、宮崎県は「読書県づくりの推進」を掲げ、行政、地域、図書館、学校、家庭等が連携を図りながら全県的な取組を行っている。

このような中、本研究大会では今後の学校図書館のあるべき姿、読書教育の在り方等について協議を深めることで本主題に迫っていきたいと考える。

7 日程

時間	13:00 ~13:30	13:30 ~13:50	14:05 ~ 16:05	16:05 ~16:15
分	(30)	(20)	(120)	(10)
内容	受付	開会行事	研究発表・研究協議 (休息を含む)	閉会行事
会場	延岡市カルチャー プラザのべおか	延岡市カルチャー プラザのべおか ハーモニーホール	延岡市社会教育センター	延岡市社会教育 センター

8 分科会 (14:05~16:05)

分科	協議題	発表者	司会者	記録者	指導助言者
第1分科会	A 魅力的な学校図書館づくり	加納小学校 教諭 本田妃佐喜	北方学園 教頭 金澤由紀子	北方学園 教諭 松本 沙織	県教育庁北部教育事務所 指導主事 大田川真志
		穂北中学校 教諭 中里美紀			
第2分科会	B 学習情報センターとしての学校図書館の活用	通山小学校 教諭 佐野志織	土々呂中学校 教頭 大石 彰	東小学校 教諭 村田 葵	県教育庁中部教育事務所 指導主事 有田 雅代
		永久津中学校 教諭 松下良子			
第3分科会	C 学校における読書指導	山之口小学校 教諭 梅元杏華	東小学校 教頭 上米良 剛	南方中学校 教諭 舟津 淳子	県教育庁南部教育事務所 指導主事 前田 雅樹
		西岳中学校 教諭 稲元 愛			
第4分科会	D 特別支援教育における読書活動	学校図書司書 多田明子	恒富小学校 教頭 武田啓宏	南中学校 教諭 中田 晃喜	県教育庁北部教育事務所 指導主事 緒方 宏文
		南郷中学校 教諭 外林義朗			
第5分科会	E 学校司書・司書教諭の役割	国富小学校 教諭 河野歩美	西小学校 教頭 島 和	黒岩小学校 教諭 木下奈緒子	県教育庁義務教育課 指導主事 川崎 優也
		広瀬中学校 教諭 有田桂子			
第6分科会	F 地域・家庭・公共図書館との連携	北川小学校 教諭 泉美麻里	東海東小学校 教頭 黒木正大	緑ヶ丘小学校 教諭 甲斐由利子	県教育研修センター 社会教育主事 楠本 将夫
		島野浦学園 教諭 甲斐聖佳			
		宮崎商業高校 教諭 厚地晃子			

【分科会の時間配分】

	進行 説明	発表1 (質疑含む)	発表2 (質疑含む)	発表3 (質疑含む)	休息	協議	指導 講評
第1~5 分科会	14:05~	14:10~	14:35~	/	15:00~	15:10~	15:55~
	14:10	14:35	15:00		15:10	15:55	16:05
第6 分科会	14:05~	14:10~	14:30~	14:50~	15:10~	15:20~	15:55~
	14:10	14:30	14:50	15:10	15:20	15:55	16:05

県北大会 発表者一覧

	研究項目・内容	発表者	ページ
第1分科会	「魅力的な学校図書館づくり」 ～各学校における読書指導の実践を通して～	宮崎市立加納小学校 (日向市立財光寺南小学校) 教諭 本田妃佐喜	5～6
	「魅力的な学校図書館づくり」 ～豊かな心と学びを育む学校図書館～	西都市立穂北中学校 教諭 中里 美紀	7～8
第2分科会	「学習情報センターとしての学校図書館の活用」 ～教科の学習内容を深めるための 学校図書館利用を通して～	川南町立通山小学校 教諭 佐野 志織	9～10
	「学習情報センターとしての学校図書館の活用」 ～学習情報センターとしての学校図書館の活用～	小林市立永久津中学校 教諭 松下 良子	11～12
第3分科会	「学校における読書指導」 ～学校における読書指導を通して～	都城市立山之口小学校 教諭 梅元 杏華	13～14
	「学校における読書指導」 ～1年間を見通した計画的な読書指導を通して～	都城市立西岳中学校 教諭 稲元 愛	15～16
第4分科会	「特別支援教育における読書活動」 ～競い合う読書から認め合い・学び合う読書へ～ Well-being 特別支援教育の視点で、 学校図書館の機能をONにする	(株) 共立ソリューションズ 学校図書司書 多田 明子	17～18
	「特別支援教育における読書活動」 ～特別支援教育の視点に立った読書指導の充実～	日南市立南郷中学校 (日南市立北郷小中学校) 教諭 外林 義朗	19～20
第5分科会	「学校司書・司書教諭の役割」 ～図書主任の役割と学校司書との連携の在り方～	宮崎市立国富小学校 教諭 河野 歩美	21～22
	「学校司書・司書教諭の役割」 ～図書主任の役割と読書活動アシスタント との連携の在り方～	宮崎市立広瀬中学校 教諭 有田 桂子	23～24
第6分科会	「豊かな心と学びを育む学校図書館」 ～地域・家庭・公共図書館との連携を通して～	延岡市立北川小学校 教諭 泉美 麻里	25～26
	「豊かな心と学びを育む学校図書館」 ～地域・家庭・公共図書館との連携を通して～	延岡市立島野浦学園 教諭 甲斐 聖佳	27～28
	「地域・家庭・公共図書館との連携」 ～「本」に関わるボランティアを通して～	宮崎県立宮崎商業高等学校 教諭 厚地 晃子	29～30

第3分科会「豊かな心と学びを育む学校図書館」 ～学校における読書指導を通して～

都城市立山之口小学校 教諭 梅元 杏華

1 はじめに

本地区では、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」や、県の「宮崎県生涯読書活動推進計画」の趣旨を踏まえた基本方針を示している。その中で、学校は各教科等を通じた多様な読書活動が展開される場として、児童の読書活動推進の一環を担っている。そこで、図書主任会のおりに、各校の取組や実践について情報交換をしながら、図書館運営や読書指導の充実を図っている状況である。

2 主題設定の理由

同地区であっても、学校によって、児童数や学校図書館の環境、司書教諭や図書館サポーターの配置など、抱えている実情は様々である。そこで、多様な取組や実践の内容を共有する際の共通目標として、「豊かな心と学びを育む学校図書館」という主題を設定した。

3 研究目標

豊かな心と学びを育む学校図書館 ～学校における読書指導を通して～

4 研究の仮説

明確な視点をもとに各校の取組や実践について整理・共有し、実践内容をより深めたり新たな取組を加えたりすれば、学校における図書館運営や読書指導のさらなる充実と児童の読書活動の推進を図ることができるであろう。

5 研究の実際

(1) 読書活動の工夫

ア 読書時間の設定

全校児童が一斉に読書に取り組む時間を確保するために、校時程に読書の時間を組み込んだり、読み聞かせの機会を設定したりしている。読み聞かせ活動は、保護者や地域ボランティアによる定期的なものや、図書館サポーターによる給食時間の放送、学級担任によるものなど、様々な形態で行われている。また、「家庭読書の日」を実践し、読書を通じた家庭との連携を図る取組も行われている。

イ 学校図書館の環境整備

学校図書館内に、各学年の国語科の学習に関連した本を集めたコーナーを設けたり、新聞を置いたりすることにより、各教科等の学習をより深める手立てとしている。さらに、「くれよん号」の本を活用しながら、定期的に本の入れ替えを行う学校もある。

ウ 読書履歴の視覚化

児童それぞれがこれまでに読んだ本の記録として、「読書貯金通帳」を作成している学校がある。読書の足跡を児童自身が認識する手立てとなっている。

(2) 図書館利用が活性化するための手立て

ア 貸出冊数を増やすための取組

一定数の貸出冊数に到達するともらえる「1冊プラス券」の配付や、学期末・学年末に「多読賞」の児童を表彰する取組により、児童の図書館利用に対する意

欲が向上している。

イ 親しみのある学校図書館にするための取組

児童にとって図書館が身近で親しみのある場所となるよう、図書館内における本のポップや各コーナーの設置、図書館近辺の掲示を工夫している。さらに、「図書館だより」を発行している学校もある。

(3) 学期ごとの読書活動（イベント）の工夫と推進

ア 学校行事や季節に合わせた図書館イベントの実施

季節や学校行事にちなんだイベントを企画することで、児童の図書館利用が増加する傾向が見られる。



【読書玉入れ（祝吉小）】



【あじさい読書（山田小）】

イ 児童が読書の幅を広げることを意図したイベントの実施

児童が様々なジャンルの本に触れることや、本の分類を知ることが目的としたイベントを企画している。

(4) 図書館サポーターとの連携

年度初めの学校図書館オリエンテーションによる図書館利用の指導や図書館の掲示、イベント企画・実践を中心に、図書館サポーターとの連携を図っている学校が多い。また、学級担任が授業に関連する本の収集依頼をすることで、児童が学習内容を深めたり広げたりすることができる。

6 成果と課題

(1) 成果

- 各学校での取組を共有することで、自校の取組の参考にすることができ、地区全体における児童の読書活動推進につながった。
- 項目を整理しながら学校における読書指導を見直すことで、意図的視点をもって児童の読書活動に対する手立てについて考えることができた。

(2) 課題

- ほとんどの学校において、共有した実践の中心となっているのは図書主任や図書館サポーターなど一部の職員であり、学校全体で効果的な読書指導に取り組むための教職員の学びの機会が確保できていない。
- 学校の規模や図書館サポーターの配置状況により、取組が制限される学校もあるため、共有した取組の中から自校に合ったものを選び、工夫を加えながら実践する必要がある。

7 おわりに

今回の研究を通して、各学校の取組について情報交換を行うことにより、同地区内での読書指導の現状を把握し、今後の参考にすることができた。一方で、教職員が読書指導について学ぶ機会が少ないという課題や、各学校が抱える問題点も見えてきた。豊かな心と学びを育む学校図書館という共通目標のもと、今後も取組や実践の共有を継続するとともに、課題解決の方法も検討していきたい。

第3分科会「学校における読書指導」

～1年間を見通した計画的な読書指導を通して～

都城市立西岳中学校 教諭 稲元 愛

1 はじめに

本校は、都城市西方の山間部に位置する、全校生徒17名の小規模校である。教室数が少ないため「図書室」が単体で設置されておらず、多目的教室に書架を並べて利用している状況ではあるが、人数に対して蔵書は充実している。また、小学校では「くれよん号」を利用しており、生徒たちは本に親しむ環境の中で育ってきたといえる。

都城市全体としては図書館サポーターの配置が進んでおり、その専門性を活かす機会の創出や、教員・図書館サポーター間の連携による読書環境の充実が望まれるところである。

2 主題設定の理由

生徒を対象としたアンケート調査の結果、「あなたは読書が好きですか」という質問に対しては、半数以上の生徒が「とても好き」・「どちらかと言えば好き」と肯定的な回答をしたにも関わらず、ほとんどの生徒は中学校に進学したことを機に読書量が減ったと答えている。また、その理由としてほとんどの生徒が「時間がない」と答えた。また、「どのようなジャンルの本が好きですか」という質問に対しては、半数以上の生徒が「物語・小説」と回答し、「どのような本が読みたいですか」という設問に対しては「短編がたくさん載っている本」、「絵が載っている本」など、内容が簡単で手に取りやすい本を好んでいることが分かった。このようなことから、読書機会の確保や、本を手に入るきっかけになるようなイベントの実施、読書の幅を広げる工夫を図書館サポーターと連携して計画する必要があると考えた。

3 研究目標

1年間を通じて計画的に読書指導を行い、生活の中で読書に親しむ態度を培う。

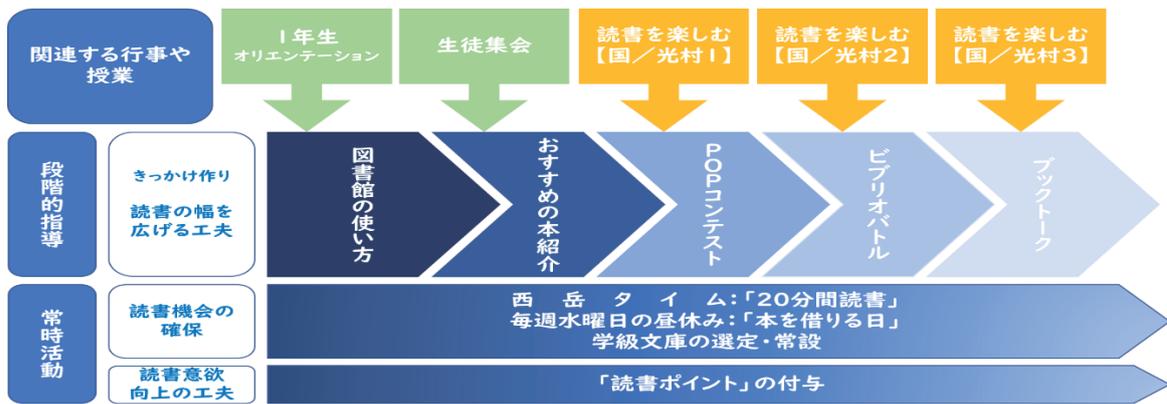
4 研究の仮説

読書に親しむきっかけ作りや読書時間の確保、読書の幅を広げる読書指導を図書館サポーターと連携して、段階的・計画的に行えば、生活の中で読書に親しむ態度が培われるであろう。

5 研究の実際

(1) 1年間を見通した読書指導計画の立案

計画的に読書指導を行うために、1年間の指導計画を立てた。段階的に活動の強度が上がるように、また、関連のある授業の単元や学校行事を絡めて効率的に指導できるようにした。「おすすめの本紹介」に関しては、職員に紹介を依頼した。また、放課後20分間の「西岳タイム」を活用した読書活動も師弟同行で実施し、教員という身近な存在への興味が読書への興味へ移行するように工夫した。また、貸出時に本に関する助言が得られるよう、図書館サポーターが来校する水曜日を図書の貸出日に設定した。



(2) 図書館利用が活性化するための手立て

広く都城地区内から情報を集めた結果、図書館利用の活性化に向けて右記のような取組をしている学校が多くあった。いずれも、図書館へ通うきっかけ作りとして有意義な活動となっている。

- ・図書委員による購入本の選本
- ・季節や行事に応じた特設コーナーの設置
- ・学年ごとの読書量が分かる掲示物の作成
- ・教員によるおすすめ本紹介
- ・ポップコンテストの実施
- ・図書館まっりの実施

(3) 図書館サポーターとの連携

十進分類法に基づく図書館の整備や本の探し方の紹介、壊れた本の修復や保護など、専門的な知識を生かした業務を担っている。また、(2)に挙げた図書館のレイアウトや諸イベントの実施について、教諭のみでは手が行き届かない部分をサポートしてもらっている。設営や企画が大変充実し、生徒にとっても「通いやすい図書館」となっている。

6 成果と課題

(1) 成果

- 段階を踏んだ指導と常時活動を併せて計画的に実施したことにより、常に読書に親しむ環境を作ることができた。
- 令和5年度の貸し出し冊数(509冊)は、令和4年度の貸し出し冊数(127冊)を大幅に上回った。
- 図書館サポーターと連携し、読書への関心を高めるための図書館設営やイベントの企画運営ができた。

(2) 課題

- 読書の幅や機会を拡充し、生涯読書に親しむ環境をつくるためにも、市や県の図書館利用を検討していく必要がある。
- 図書館サポーターについては学校の配置状況に差があるため、密に連携し、その職能を活かす取組の充実を図りたい。

7 おわりに

この研究を通して、年間を見通して計画的に読書指導を行えば、読書に親しむ生徒を育成できると感じた。小学校までで生まれている「読書が好き」という気持ちを中学校でさらに育て、人生の要所所で心の拠り所となり、また、生き方のヒントをくれ、想像力の翼を与えてくれるのが本であることを、生徒に感得させたい。今後も計画的に指導を行うと共に、学校外の機関や図書館サポーターなどの専門家と連携することで、生涯読書に親しむ姿勢を培いたい。